残したい伝統食材

農山村文化協会選定

本県から3点

国分ニンジン
在来種コンニャク
大白大豆

日本各地域の食生活を支えてきた個性的な伝統食材を発掘する「故郷に残したい食材」に、本県から「国分ニンジン」「在来種コンニャク」「大白大豆」が選ばれた。農林水産省の地域食文化発掘・普及事業の一環で、社団法人・農山村文化協会が実施、消滅の危機にある伝統食材に新たな光が当てられている。

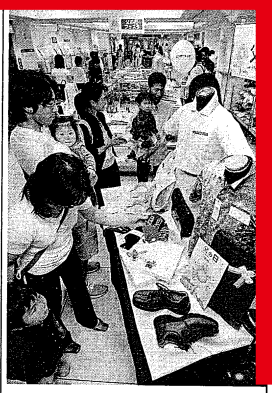
「故郷に残したい食」は、都道府県や団体の推薦を受け、学識経験者らによって、フォーラムなどを踏まえて百十五点を選定した。

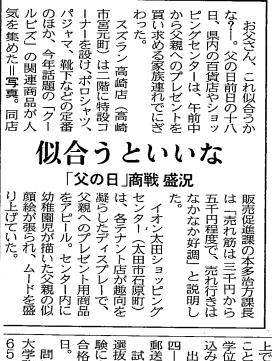
国分ニンジンは、大正時代の中ごろ、群馬町の農業者志らによって、フランス産のニンジンを基に品種改良が始められた。甘みと風味があり、全国的な人気を誇ったが、高度経済成長期、六十八年ゼロという主の長さが敬遠され、生産を減らした。現在、同町の栽培農家は数軒となっている。

在来種コンニャクは、古くから日本で栽培されてきた品種で、マンナンが高く、品質、味がすぐれており、生芋コンニャクに適しているといわれる。しかし、新品種と比べ病気に弱く、収量も少ないことなどから、西毛地区の一部農家を除き、ほとんど生産されていない。

「大白大豆」は片品村の特産で、味、香りに優れ、粒が大きく、光沢がある。かつて優良品種として知られ、昭和四十年代まで、多く取り引きされていたものの、高原野菜へと転作する農家が増え、特産品としての期待されている。

検討委員会のメンバーでもある群馬の食文化研究会代表幹事の志田敬子さんは「自宅の便利さに慣れすぎ、土地の気候、風土、歴史に根ざした食材のすばらしさに関心を持たない人が多くなった。食べ物は良い」と厳戦に比べれば試比べ、粘って期待持たせる試合内容になっていたことに意味がある。最後まで楽しめる試合だった。





不戦の思い

戦後60年の証し

太平洋沖で漂流4日間

迫り来る敵機 運を天に任せた

清水宗一さん（下一目）

一九四二（昭和十六）年八月、部隊は高崎で編成された。清水さんは歩兵第115連隊第一大隊本部付弾薬班第三分隊長となった。

清水さんを乗せた「神愛丸」を含む大型貨物船八隻は、駆逐艦二隻に護衛され、ニューギニアを目指していた。そして四三年三月三日朝、ダンピール海峡で連合軍の大空襲に遭った。

貨物船には約三千五百人ずつ乗っていた。数え切れないほどの爆撃機に左右逃げ場がない。そこは目的地まで八時間の場所。見渡す限り、空と海しかなかった。

目的地のニューギニアを目指していた太平洋沖。空襲を受けた貨物船は沈み、海に身を投げ出された。そこへ敵戦闘機の銃撃が始まった。「ごうかん（弾）が当たらないでくれ」。運を天に任せるしかなかった。

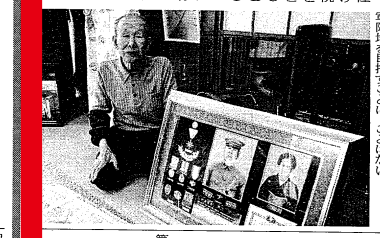
青い海は次第に「血の海」となった。敵の攻撃は激しかった。ただ、当時二十七歳だった清水宗一さん（九〇）＝下日町馬山＝は幸運に左右逃げ出すが、そこは目的地まで八時間の場所。見渡す限り、空と海しかなかった。

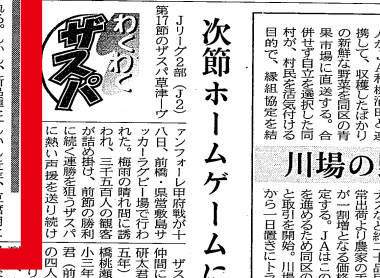
一九四二（昭和十六）年八月、部隊は高崎で編成された。清水さんは歩兵第115連隊第一大隊本部付弾薬班第三分隊長となった。

清水さんを乗せた「神愛丸」を含む大型貨物船八隻は、駆逐艦二隻に護衛され、ニューギニアを目指していた。そして四三年三月三日朝、ダンピール海峡で連合軍の大空襲に遭った。

貨物船には約三千五百人ずつ乗っていた。数え切れないほどの爆撃機に左右逃げ場がない。そこは目的地まで八時間の場所。見渡す限り、空と海しかなかった。

当時の記憶や勲章の収められた軍服





そのままニューギニアの守備に向かうことを決めていた。その準備を進めるさなか、終戦となった。

「戦争は絶対にだめだと思っていても、忘れることはできない北方の日本軍陣地を目指すことになった。険しいサラウケット山脈越えで多くの死者が出た。当初二万三千人いたが、餓死、転落、病気などで約九千人を失った。

その後、寄せ集めで再び115連隊が編成された。食料も弾丸もない悪条件の中で勝ち目のない戦いが続いた。部隊は四五年八月二十日に全員玉砕する

清水さんは「戦争は絶対にだめだと思っていても、忘れることはできない。つらい記憶が頭の片隅から離れることはない。

わくわくザスパ

次節ホームゲームに期待

Jリーグ2部（J2）第17節のザスパ草津ウォーカーラクビー場で行われ、前橋・県営敷島サッカー場で行われた。榎間の晴れ間に誘われ、三千五百人の観客（小三）兄弟、奈良俊佑（前橋二宮小五年）＝前橋市＝が詰め掛け、前節の勝利に続く連勝を狙うザスパに熱い声援を送り続けた。

「アンフォーレ甲府戦が十八日、ザスパの応援を通じて仲間になったという須藤研太君（伊勢崎境栄女小五年）、鹿沼新吾君（前橋桃瀬小五年）＝同市＝の四人は、最も熱い応援席最前列を陣取って、終了間際に甲府に逆転されると、がっくり肩を落とした。

後半最初のザスパの攻撃には手を振りながらゴールを喜ばせた。し点に追いつかれ、再びからの応援に広げる声援を送り続けた。

また、昨年のJ-TOP時代、奈良君も「点を取る」とたたえた。

「大人のサポーターに交じって声援を送る須藤君、奈良兄弟、鹿沼兄弟ら

似合うといいな

「父の日」商戦 盛況

お父さん、これ似合うかな？。父の日前日の十八日、県内の百貨店やショッピングセンターは、午前中から父親へのプレゼントを買い求める家族連れでにぎわった。

スズラン（高崎市）高崎市営元町）は二階に特設コーナーを設け、ポロシャツ、パジャマ、靴下などの定番のほか、今年新商の「クールビズ」の関連商品が人気を集めた＝写真、同店

販売促進課の本多裕方課長は「売れ筋は三千円から五千円程度で、売れ行きはなかなか好調」と説明した。

イオン太田ショッピングセンター（太田市石原町）は、各テナント店が趣向を凝らしたディスプレーで、父親へのプレゼント用商品をアピール。センター内には幼稚園児が描いた父親の似顔絵が飾られ、ムードを盛り上げていた。

農家60人が朝採り出荷

川場の野菜

世田谷へ

来月から八百屋13軒に

東京・世田谷区の八百屋十三軒に七月から「川場野菜コーナー」がお目見えする。同村の農家六十人がJA利根沼田と連携して、収穫したばかりの新鮮な野菜を区内の青果市場に直送する。合併せて自立を選択した同村が、村民を区民に位置付ける目的で、締結協定を結ぶ。

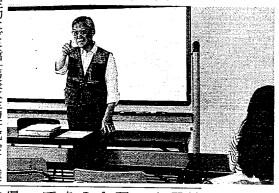
区民やJAに働きかけた。

直送する野菜は当面、枝豆、トマトキュウリ、ナスなど約二十品目。通常価格より農家の手取りが一割増となる価格を設定する。JAはこの事業を進めるため区の青果市場と連絡調整会議を開催。川場支所から二日置きにトラック

淡水生物の専門家養成

渋川

設立総会に県職員ら22人



群馬の淡水域と生物について講演する金井さん

淡水域の生物などを調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

奥利根水源を訪ねませんか

30日まで募集

森林やダムなどの重要性について理解を深めてもらおうと、奥利根水源地見学ツアーが七月二十三日（土）、二十一日（日）に行われる。

ツアーは「森と湖に親しむ旅」（七月二十一日）と「ダムと森林を学ぶ旅」（七月二十三日）の二日間。水上町の奥利根水源の森や矢木沢ダム、奈良俣ダムなどを見学して回る。

対象者は小学生と保護者。定員は各回十組。

保護者一人に対して小学生三人まで参加できる。午前七時半に上毛新聞社前駐車場に集合し、午後六時半ごろ同所で解散予定。費用は小学生無料。保護者は五百円。

希望者は往復はがきに、金額の住所、氏名、年齢と電話番号を書き、三十日必着で郵送する。あて先は、〒371-0846 前橋市元総社町五九二ノ一 国土交通省利根川ダム統合管理事務所調査課内「奥利根水源地見学ツアー」実行委員会事務局（☎027・251・2222）。

来年度募集は3専攻18人

前橋工科大学院

前橋工科大学院（前橋市上佐鳥町）は、二〇〇六年度の大学院工学研究科博士前期課程A日程の学生募集要項を発表した。

募集人員は建設工学、建築学、システム情報工学の三専攻でそれぞれ六人の計十八人。志願者は必ず指導教官と連絡をとり、研究内容を熟知した上で志望分野を決定すること。出願資格は学士の学位を取得または取得見込みの者。

出願の受付期間は七月四日～七日で、書留速達の郵送に限る。

試験日は七月十四日、選抜は書類審査と面接試験による総合的に行う。合格発表は七月二十二日。

問い合わせは前橋工科大学務課（☎027・265・0111）。

奥利根水源を訪ねませんか

30日まで募集

森林やダムなどの重要性について理解を深めてもらおうと、奥利根水源地見学ツアーが七月二十三日（土）、二十一日（日）に行われる。

ツアーは「森と湖に親しむ旅」（七月二十一日）と「ダムと森林を学ぶ旅」（七月二十三日）の二日間。水上町の奥利根水源の森や矢木沢ダム、奈良俣ダムなどを見学して回る。

対象者は小学生と保護者。定員は各回十組。

保護者一人に対して小学生三人まで参加できる。午前七時半に上毛新聞社前駐車場に集合し、午後六時半ごろ同所で解散予定。費用は小学生無料。保護者は五百円。

希望者は往復はがきに、金額の住所、氏名、年齢と電話番号を書き、三十日必着で郵送する。あて先は、〒371-0846 前橋市元総社町五九二ノ一 国土交通省利根川ダム統合管理事務所調査課内「奥利根水源地見学ツアー」実行委員会事務局（☎027・251・2222）。

来年度募集は3専攻18人

前橋工科大学院

前橋工科大学院（前橋市上佐鳥町）は、二〇〇六年度の大学院工学研究科博士前期課程A日程の学生募集要項を発表した。

募集人員は建設工学、建築学、システム情報工学の三専攻でそれぞれ六人の計十八人。志願者は必ず指導教官と連絡をとり、研究内容を熟知した上で志望分野を決定すること。出願資格は学士の学位を取得または取得見込みの者。

出願の受付期間は七月四日～七日で、書留速達の郵送に限る。

試験日は七月十四日、選抜は書類審査と面接試験による総合的に行う。合格発表は七月二十二日。

問い合わせは前橋工科大学務課（☎027・265・0111）。

農家60人が朝採り出荷

川場の野菜

世田谷へ

来月から八百屋13軒に

東京・世田谷区の八百屋十三軒に七月から「川場野菜コーナー」がお目見えする。同村の農家六十人がJA利根沼田と連携して、収穫したばかりの新鮮な野菜を区内の青果市場に直送する。合併せて自立を選択した同村が、村民を区民に位置付ける目的で、締結協定を結ぶ。

区民やJAに働きかけた。

直送する野菜は当面、枝豆、トマトキュウリ、ナスなど約二十品目。通常価格より農家の手取りが一割増となる価格を設定する。JAはこの事業を進めるため区の青果市場と連絡調整会議を開催。川場支所から二日置きにトラック

淡水生物の専門家養成

渋川

設立総会に県職員ら22人

群馬の淡水域と生物について講演する金井さん

淡水域の生物などを調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

栗田代表によると、本県には淡水生物を教える大学がないため、陰水域の生物調査、研究する「群馬県淡水生物研究会」（栗田秀男代表）が十八日、渋川市内で発足した。群馬野外生物学会のメンバーや県職員らを中心に、一般市民を含めて組織。研修会、講演会の開催や、会報などを発行しながら、研究者の支援と育成を目指して活動を展開していく方針という。

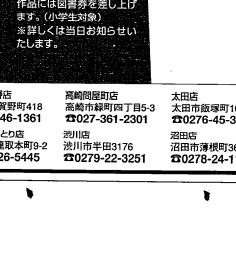
Think. Feel. Drive. SUBARU　すべてはお客様のために AUTO FORMATION

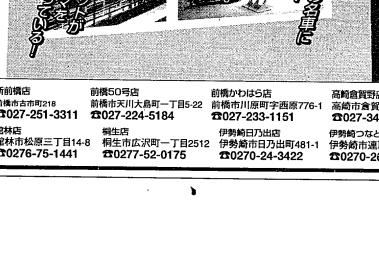
第27回【親と子の夏休み】参加者150組300名大募集!!

スバル工場の見学教室

日時／平成17年8月3日㈬　場所／富士重工業㈱群馬製作所矢島工場

レガシィの製造をはじめ、約3万点もの部品や、ロボットによる最新の製造工程、テストコースで繰り広げられる大迫力の走行テスト。幻のあのクルマが……！魅力満載の新鮮体験です。この夏は、生きた社会科の勉強をご体感ください。





開催!!
感想文コンクール
工場見学をした感想を作文にしてお送りください。優秀作品には図書券を差し上げます。(小学生対象)
※詳しくは当日お知らせいたします。

お申し込み方法

●応募資格／小学生のお子様1名に必ず保護者1名のペア。危険防止のため、小学生未満のお子様の参加はご遠慮下さい。
●募集人数／150組300名様（応募多数の場合は抽選となります）より多くのご家族に参加頂く為に、1家族から2名（保護者1名、お子様1名）の1ペアとさせて頂きます。
●参 加 費／無料（別途バス代をお預かりいたします）
●集合場所／富士スバルの最寄りのお店が集合場所です。お店の場所は裏面の下をご覧ください。お店から工場までは有料の貸し切りバスでご案内いたします。
※工場敷地内に駐車場がございませんので、マイカーでのご参加はご遠慮ください。
●応募方法／❶官製ハガキ・下記要領でお申し込みください。❷お近くの富士スバル各店に申し込み用紙をご用意しております。❸富士スバルのホームページからもお申し込みいただけます。 http://www.fujisubaru.co.jp
●締め切り／7月12日㈫【当日着まで有効。ご応募はお早めに。】
ホームページでの受付は7月12日㈫夜24:00まで
●発　　表／参加資格を得られた方には、時間、集合場所などの詳細を後日ご連絡いたします。
／富士スバル株式会社　スバル工場見学教室事務局係
●お問い合わせ　TEL.027-221-8111（内線350または322）

応募締め切り 7月12日㈫（当日着まで有効）

50 371 0023
前橋市本町二-十-二
富士スバル㈱
スバル工場見学教室
事務局係

●住　所
●参加者名・年齢（親子とも）
●お子様の生年月日・学校名・学年
●電話番号
●応募ご存知の富士スバル店舗名

お店の定休日
毎週月曜日は、富士スバルのお店はお休みです。
6月20日㈫　6月27日㈫
7月4日㈫　7月11日㈫

バス運転について　※集合場所のお店により、バスの運賃が親子ペアで¥500～¥2,000と異なります。また、各店舗の運行時間などはご当選の際にお知らせいたします。詳しくはお問い合わせください。

主催
富士スバル株式会社
FUJISUBARU
本　社／前橋市本町2丁目11番2号　TEL.027-221-8111(代)
太田支社／太田市飯塚町1620-1　TEL.0276-45-3986(代)
協力／富士重工業株式会社　後援／上毛新聞社　群馬テレビ　FMぐんま

お近くの富士スバルのお店が集合場所です

大泉店 邑楽郡大泉町西小泉5-2-16 ☎0276-62-4521
新前橋店 前橋市古市町218 ☎027-251-3311
館林店 館林市松原三丁目14-8 ☎0276-75-1441
前橋50号店 前橋市天川大島町一丁目5-22 ☎027-224-5184
桐生店 桐生市広沢町一丁目2512 ☎0277-52-0175
前橋かわはら店 前橋市川原町字西原776-1 ☎027-233-1151
伊勢崎日乃出店 伊勢崎市日乃出町481-1 ☎0270-24-3422
高崎倉賀野店 高崎市倉賀野町418 ☎027-346-1361
伊勢崎つはとう店 伊勢崎市連取本町9-2 ☎0270-26-5445
高崎問屋町店 高崎市綿町四丁目5-3 ☎027-361-2301
渋川店 渋川市半田3176 ☎0279-22-3251
太田店 太田市飯塚町1620-1 ☎0276-45-3986
沼田店 沼田市薄根町3689-4 ☎0278-24-1133
富岡店 富岡市曾木105 ☎0274-62-3535
太田50号店 太田市東新町368-2 ☎0276-37-3222
太田西店 太田市西新町44-4 ☎0276-31-7001
藤岡店 藤岡市篠塚72-1 ☎0274-22-4198

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。